

Ⅱ 学校の概要

- 1 名 称 新篠津村立新篠津小学校

TEL 0126-57-2179

FAX 0126-58-3153

- 2 所在地 石狩郡新篠津村第46線北10番地

- 3 学級数 通常学級6学級 特別支援学級2学級（「ほなみ学級」） 計8学級

- 4 校下の特色

新篠津村は石狩平野の西部に位置し、東西8.7km、南北14.3km。石狩川に沿って南北に延び、北は月形町、東は岩見沢市、西は当別町、南は江別市の4市町村に囲まれている。面積78.04km²、人口2,715人、世帯数1,342世帯。（令和7年4月1日現在）

村内に山はなく、海拔約7～11mの平坦な土地が続く。札幌から車で約1時間（35km）という地理環境は、都市との交流を進める上で好都合である。かつて、新篠津村は、泥炭と洪水に苦しめられてきた。運河を掘り、客土を重ね、実りの秋には黄金色の稲穂が広がる稲作中心の農村となった。近年は、基幹作物の水稻が、米の生産調整により転作が余儀なくされ、転作作物として小麦、豆類等を組み入れた複合経営を基本に、野菜、花卉の栽培や有機農法にも力を入れている。しのつ湖では夏はキャンプやカヌー、冬はわかさぎ釣りを楽しむことができる。8月に「青空祭り」、3月には「らんたん祭り」など、村の大きな祭りが開催され、たくさんの観光客が村を訪れている。昨年度は、新たに設置された天文台で、星空を眺める村行事が企画された。また、今年度は、新たに凧揚げの村行事が企画されるなど、観光客の誘致にも力を入れている。

本村には、4つの福祉施設、身体の不自由なお年寄りのための特別養護老人ホーム「新篠津福祉園」、65歳以上のお年寄りが介護を受けられる「ディサービスセンター」、知的な障害のある人たちの更生をめざす「更生園」、その授産施設「ふれあいの苑」がある。美しい田園風景のなかで、ノーマライゼーションを基調とした心の豊かな田園福祉の村をめざしている。また、農業のシステム化、クリーン化、福祉活動、コミュニティ活動等を通じて、活気に満ちた新篠津村の創造に向けて、村民一体となって地域づくりを進めている。

5 学校・児童・保護者の状況

本校は、村内の5小学校（第一小学校・第三小学校・第四小学校・第五小学校・新篠津小学校）を統合して、昭和53年4月1日に開校した。

今年度は、8学級（特別支援2学級を含む）、児童数115名の在籍である。

児童・教職員用にLTE回線対応のiPadが貸与され、日常的な学習活動の他、端末の持ち帰りやオンライン学習のスムーズな実施、総合的な学習の時間や修学旅行等の外出先での活動に大きな役割を果たしている。また、ほぼ全ての教室にエアコンが整備され、暑さを気にせず、学習に集中することができる。学習支援員、ことばの教室支援員、ALT等、村費負担により職員を充実させ、児童へのきめ細かい指導を行う体制が整備されている。

校内研修では、対話を重視した授業改革に全教職員で取り組み、「子どもの未来保障」に向けて、自ら考え生き生きと学び合う子どもの育成をめざしている。

小学校・中学校1校ずつであるため、通学区域は全村にわたり、遠距離通学が多い。半数を超える児童がスクールバスで通学している。

教育活動の特徴として、地学協働活動の充実を図っている。10年以上も続いている「ふれあい塾」（高齢者）との交流学习、外部講師を招いた農業体験や体験学習等を積極的に取り入れている。昨年度、本校の地学協働活動に関わった大人の延べ人数は332名に達している。また、教育目標にある「母校を愛し、郷土を愛し、未来を拓く」子ども達を育成するために、子どもを中心とした教育活動が推進できるよう、教育課程の編成、実施、評価を行っている。

令和3年度に、新篠津村小中一貫教育（併設型）がスタートし、中学校教諭による乗り入れ授業や中学校定期テスト体験、部活動体験、一日入学等の体験的活動を実施している。また、小中9年間の学びを継続する各教科の系統表を作成し、小中一貫教育の教育課程が編成されている。

生活や学習は、全体的に落ち着いた雰囲気で過ごしている。異学年交流では、縦割り班による清掃活動に加え、委員会活動や行事の係活動を通して、日常的に交流を図っている。また、全校集会の企画・運営などを通して、高学年の児童が低学年の児童に規範を示す雰囲気の醸成を図っている。

地域、保護者の協力体制も整っている。PTA活動の参加率も高く、役員選出時も各地域で相談して選出されるなど、子どもたちの成長を見守る大人の集団として機能している。